はじめに

各講で、「取り上げた題材の大学」の大まかな学部別入試傾向を説明していますので、参考にしてください（「第四講」のみ、「近世」という枠組みで題材を選定していますので、出典大学ではありませんが、近世が出題されやすい大学の詳細をお伝えしています）。本講座で第一志望の学部の傾向をしっかり掴み、合格を手に入れるように一緒に頑張りましょう！（講義を見終えたら、もちろん、自分が一番行きたい大学・学部の過去問を重点的にやるべきですが、万一それが終われば、まずは同じ大学の他学部の過去問を、そして、さらにそれが終われば、数多くいろいろな大学の過去問をやること）。

＊本講座は「文法」・「読解のルール」が理解できていることを前提に講義をしています。

予復習・授業の受け方について

各講の動画を見る前に、必ず該当講の予習をすること。予習が終われば、時間をあけずに該当講の動画を見て下さい。どうしてその解答を選んだのか、根拠を覚えている間に見ることが重要です。講義を見終えたら、復習を必ずすること。間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰して、次回同じような問題が出たときには解けるようにしていきましょう。「復習問題」がありますが、授業で扱っていない問題がたくさんあるはずです。授業で扱っていないものは、その講で取り上げた題材の大学の他学部の過去問です。「復習問題」というよりは「チャレンジ問題」という位置づけで解いてください。もちろん解説があるので、実施後にきちんと読むこと。あとは、解答解説に重要単語も載せていますので、そこに掲載されている単語（特に太字）は完璧にしてくださいネ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　『無名草子』　青山学院大学……p.3
第二講　『たまきはる』　法政大学……p.14
第三講　『住吉物語』　中央大学……p.24
第四講　『折たく柴の記』　法政大学……p.32
第五講　『源氏物語』　立教大学……p.41

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講『無名草子』　青山学院大学

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

八十(やそぢ)あまり三年(みとせ)の春秋、いたづらにて過ぎぬることを思へば、いと悲しく、たまたま人と生まれたる思ひ出でに、後の世の形見にすばかりのことなくてやみなむ悲しさに、髪を剃(そ)り、衣を染めて、わづかに姿ばかりは道に入りぬれど、[a]心はただそのかみに変はることなし。年月の積もりに添へて、いよいよ昔は忘れがたく、古りにし人は恋ひしきままに、人知れぬ忍び音のみ泣かれて、苔(こけ)の袂(たもと)乾く世なき慰めには、花籠(はなこ)をひぢに掛けて、朝ごとに露を払ひつつ、野辺の草むらに交じりて花を摘みつつ、仏に奉るわざをのみして、あまた年[b]経ぬれば、いよいよ頭(かしら)の雪積もり、[c]面(おもて)の波も畳みて、いとど見まうくなりゆく鏡の影も、我ながらうとましければ、人に見えむこともいとどつつましけれど、道のままに花を摘みつつ、東山わたりをとかくかかづらひありくほどに、やうやう日も暮れ方になり、たち帰るべきすみかも遙(はる)けければ、いづくにても行きとまらむところに寄り臥しなむと思ひて、「*三界無安(さんがいむあん)、猶如火宅(いうにょくわたく)」と口ずさみて歩み行くほどに、最勝光院の大門開きたり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

うれしくて歩み入るままに、御堂の飾り、仏の御さまなど、いとめでたくて、浄土もかくこそと、いよいよ[d]そなたにすむ心も催さるる心地して、昔より古き*御願ども多く拝みたてまつりつれど、かばかり御心に入りたりけるほど見えで、金の柱、玉の*幡（はた）をはじめ、障子の絵まで見どころあるを見はべるにつけても、まづ、[e]この世の御幸ひも極め、後の世もめでたくおはしましけるよと、うらやましく、伏し拝みて立ち出でて、西ざまにおもむきて京の方へ歩み行くに、都のうちなれど、こなたざまはむげに山里めきて、いとをかし。

五月十日余日のほど、日ごろ降りつる五月雨の晴間待ち出で、夕日きはやかにさし出でたまふもめづらしきに、ほととぎすさへ[f]伴ひ顔に語らふも、*死出の山路の友と思へば、耳とまりて、

をちかへり語らふならばほととぎす死出の山路のしるべともなれ

とうち思ひつづけられて、こなたざまには人里もなきにやと、はるばる見わたせば、[g]稲葉そよがむ秋風思ひやらるる早苗、青やかに生ひわたりなど、むげに都遠き心地するに、いと古らかなる檜皮屋（ひはだや）の棟、遠きより見ゆ。

いかなる人の住みたまふにかと、あはれに目とまりて、やうやう歩み寄りて見れば、築地もところどころ崩れ、門の上な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ども荒（あば）れて、人住むらむとも見えず。ただ寝殿、対、渡殿などやうの屋ども少々、いとことすみたるさまなり。庭の草もいと深くて、[h]光源氏の露分けたまひけむ蓬（よもぎ）も所得顔なる中を分けつつ、中門より歩み入りて見れば、南面（みなみおもて）の庭いと広くて、呉竹植ゑわたし、卯の花垣根など、まことにほととぎす蔭に隠れぬべく、山里めきて見ゆ。[i]前栽（せんざい）むらむらいと多く見ゆれど、まだ咲かぬ夏草の茂み、いと[j]むつかしげなる中に、撫子（なでしこ）、長春花（ちやうしゆんぐゑ）ばかりぞ、いと心地よげに、盛りと見ゆる。軒近き若木の桜なども、花盛り思ひやらるる木立、をかし。

南面の中二間ばかりは、持仏堂などにやと見えて、紙障子白らかに立てわたしたり。不断香の煙、けぶたきまで燻（くゆ）り満ちて、名香の香などかうばし。まづ、仏のおはしましけると思ふもいとうれしくて、花籠をひぢに掛け、檜笠（ひがさ）を首につらされながら、縁のきはに歩み寄りたれば、寝殿の南、東と、すみ二間ばかり上がりたる御簾（みす）のうちに、箏（しやう）の琴の音ほのぼの聞こゆ。いと心にくく、ゆかしきに、若やかなる女声にて、「いとあはれなる人のさまかな。さほどの年に、いかばかりの心にて[k]いと見苦しげなるわざをしたまふぞ。[l]小野小町がひぢに掛けけむ筐（かたみ）よりはめでたし」など言ふ人あり。

（『無名草子』による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

注

三界無安、猶如火宅＝この世は安らかなことがないことをいう『法華経』中の文言。

御願＝貴人の発願によって創建された御願寺。

幡（はた）＝仏前の左右に掛ける装飾の施された布。

死出の山路の友＝ほととぎすが、死出の山から来て鳴くという「死出の田長（たをさ）」と呼ばれたことからの言葉。

問一　傍線部ａ「心はただそのかみに変はることなし」と述べられているが、「変はること」がない「心」とは、例えばどのような「心」だと思われるか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　仏の道に入りたいと思う心。

②　人と生まれたことを悔いる心。

③　きらびやかな着物など着たくないと思う心。

④　昔のことや知人が忘れられないような心。

⑤　髪の毛が黒く豊かであったことを誇る心。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部ｂ「経」の活用の種類と活用形として正しいものを次の①～⑤から選べ。

① 四段活用・未然形
② 四段活用・連用形
③ 下二段活用・未然形
④ 下二段活用・連用形
⑤ ラ行変格活用・未然形

問三　傍線部ｃ「面（おもて）の波も畳みて」とはどのような様子をいうのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 顔がしわくちゃな様子。
② 涙が滝のように流れる様子。
③ 野辺の草が波うっている様子。
④ 家の外に流れる川の波が激しい様子。
⑤ 草に置く露が川波のように流れる様子。

問四　傍線部ｄ「そなた」とはどこをいうのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 東山　② 浄土　③ 三界　④ 御堂の中　⑤ 最勝光院

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部ｅ「この世の御幸ひも極め、また、後の世もめでたくおはしましける」とはだれのことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　仏
②　筆者
③　最勝光院を発願した人
④　髪を剃り、衣を染めた人
⑤　「三界無安、猶如火宅」と口ずさんだ人

問六　傍線部ｆ「伴ひ顔に語らふ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　よく似た顔をしていると言う。
②　一緒にいて雑談をする。
③　一緒に行きたい顔をする。
④　あたかも誰かがいるように語る。
⑤　人を誘うような調子で鳴く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部ｇ「稲葉そよがむ秋風思ひやらるる早苗」とあるが、それはどのような「早苗」だというのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 秋になれば風でなぎ倒されてしまう早苗。
② 冷たい秋風が吹くのがかわいそうに思われる早苗。
③ 稲の葉だけが秋風になびいているように見える早苗。
④ 秋風が吹くようになれば稲穂が実ると思われる早苗。
⑤ 稲穂を散らしてしまう秋風が吹くのを心配している早苗。

問八　傍線部ｈ「光源氏の露分けたまひけむ蓬（よもぎ）」とあるが、これは何の作品を踏まえているか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 平家物語
② 竹取物語
③ 伊勢物語
④ 源氏物語
⑤ 宇津保物語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部ｉ「前栽(せんざい)むらむらいと多く」というのはどのような状態をいうのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　まばらな植え込みが多く存在する状態。
②　蒸しかえるような植え込みが多く存在する状態。
③　さまざまな種類の植え込みが多く存在する状態。
④　あちらこちらにかたまっている植え込みが多く存在する状態。
⑤　人の気持ちをいらだたせるような植え込みが多く存在する状態。

問十　傍線部ｊ「むつかしげなる中に」の意味として最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　むさくるしい感じの中に。
②　恐ろしそうな風情の中に。
③　名前のむずかしい植物の中に。
④　暑苦しそうな様子の中に。
⑤　分け入るのが困難そうな中に。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　傍線部ｋ「いと見苦しげなるわざ」とはここでは具体的にどのようなことを言っているのか。最適なものを次の①〜⑤から選べ。

①　箏の琴を弾くこと。
②　寝殿の御簾からのぞき見すること。
③　持仏堂の中で名香を焚くこと。
④　ほととぎすに導かれて女たちのいる邸まで来ること。
⑤　野原の草むらから野花を摘むこと。

問十二　傍線部ｌ「小野小町」は『古今和歌集』序で言及されている六歌仙のひとりとされているが、この六歌仙には他に誰がいるか。該当する人物をひとり、次の①〜⑤から選べ。

①　紀貫之
②　在原業平
③　清少納言
④　藤原定家
⑤　大伴家持

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①　「長月」とは何月か。次の中から正しいものを選べ。

イ　一月　　ロ　四月　　ハ　七月　　ニ　九月　　ホ　十一月

②　「あてはかなる」の「あて」を漢字に直すとどうなるか。最適なものを次の中から選べ。

イ　充　　ロ　宛　　ハ　艶　　ニ　仇　　ホ　貴

③　「らうたげなり」とはどういう意味か。最適なものを次の中から選べ。

イ　疲れている様子である　　ロ　可愛らしい様子である　　ハ　大儀そうな様子である

ニ　初々しい様子である　　ホ　哀れな様子である

④　（向井去来が書いた作品中より）「先師にまみえそめられしより…」の傍線部は誰のことか。最適なものを次の中から選べ。

イ　服部土芳　　ロ　松尾芭蕉　　ハ　河合曾良　　ニ　森川許六　　ホ　孔子

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　次の空欄にはいずれも『源氏物語』の巻の名が入る。最適なものを後の中から選べ。

□にたちそふ恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ
行く方なき空に消ちてよ□のたよりにたぐふ煙とならば

イ　松風　　ロ　梅枝　　ハ　柏木　　ニ　篝火　　ホ　薄雲

⑥　次の文章を読み、後の問に答えよ。

女やるかたなく恋ひ悶（もだ）へ、（僧の）袖にすがりて送り行く。Ⅰ都をばまだ夜とともに出でしかど、栗田口（あはたぐち）まで行きかかれば、Ⅱ空、しののめに成りにけり。僧、女に言ふ。「いつまでも、つきぬ名残りに侍れど、明けはなれなば、いかばかり余所（よそ）の見る目も見ぐるし。…」

問1　傍線部Ⅰは、能因法師の「都をば A とともにたちしかど秋風ぞ吹く白河の関」（『後拾遺集』巻九）を踏まえた表現であるが、空欄 A に入る一語を次の中から選べ。

イ　霰（あられ）　　ロ　夜　　ハ　涙　　ニ　春　　ホ　霞

問2　傍線部Ⅱとあるが、「しののめ」の時間として最適なものを次の中から選べ。

イ　真夜中　　ロ　午前中　　ハ　昼下がり　　ニ　夜明け方　　ホ　黄昏どき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第一講】

〈模範解答〉

問一　④	問二　④	問三　①	問四　②	問五　③	問六　⑤
問七　④	問八　④	問九　④	問十　①	問十一　⑤	問十二　②

〈現代語訳〉

八十三年の年月が、無為に過ぎてしまったことを思うと、たいへん悲しく、たまたま人間として生まれた思い出に、来世の形見にするほどのこともなくて命を終えてしまうに違いない悲しさに、髪を剃り、衣を墨染めにして、かろうじて姿ばかりは仏道に入ったけれど、心は少しも出家以前と変わることがない。年月が積み重なるにつれて、ますます昔は忘れがたく、過去の人は恋しいので、人知れぬ忍び泣きばかり自然とされて、僧衣の袂も乾く時がない慰めには、花籠を肘に掛けて、毎朝露を払いながら、野辺の草むらに入って花を摘んでは、仏にお供えすることばかりして、多くの年が経ってしまったので、ますます白髪が増え、顔の皺も増えて、いっそう見たくなくなってゆく鏡に映る姿も、自分でもいやになるので、人に会うようなこともいっそう憚られるけれど、道に沿って花を摘みながら、東山のあたりをあちこち歩きまわるうちに、だんだん日も暮れ方になり、帰らなければならない我が家も遠いので、どこであっても行き着いた所に立ち寄って寝ることにしようと思って、「三界無安、猶如火宅（＝この世は安らかなことがなく、まるで火に包まれた住まいのようだ）」と口ずさんで歩いて行くうちに、最勝光院の大門が開いていた。

うれしくて（門の中に）歩み入ると、御堂の飾り、仏像のお姿など、たいそうすばらしくて、極楽浄土もこのようであろうと、ますます浄土にひかれる心がかきたてられる気持ちがして、昔から古い御願寺をたくさん拝み申し上げたけれど、これほど（発願者の）お心にかなったものは見当たらず、金銀で飾った柱、宝石で装飾の施された幡をはじめ、襖の絵まで見どころがあるのを見ますにつけても、まず、（この最勝光院の発願者は）現世の御幸福も極め、また、来世もすばらしくいらっしゃるよと、う

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

らやましく、（仏様を）伏し拝んで（寺を）立ち出でて、西方に向かって京の方へ歩いて行くと、都の内だけれど、このあたりはひどく山里風で、たいそう趣深い。

五月十何日かの頃で、数日来降った五月雨の晴れ間を待って、夕日がくっきりとさしていらっしゃるのも珍しいのに、ほととぎすまでも人を誘うような調子で鳴くのも、あの世へ連れ立つ友と思うと、耳にとまって、

をちかへり……＝また帰って来て鳴くなら、ほととぎすよ、あの世への道案内となっておくれ。

と自然と思い続けられて、このあたりには人里もないのだろうかと、遠くを見渡すと、稲葉がそよぐであろう秋風の頃（になれば稲穂が実ると）想像される早苗が、青々と一面に生えているあたりなど、ひどく都から遠い気持ちがするが、たいそう古雅な感じの檜皮屋の棟が、遠くから見える。

どんな人が住んでいらっしゃるのだろうかと、風情を感じて目がとまり、だんだん歩み寄って見ると、土塀も所々崩れ、門の上なども荒れ果てて、人が住んでいるようにも見えない。ただ寝殿、対屋、渡殿などのような建物が少々（あって）、たいそう質素に暮らしている様子である。庭の草もたいそう丈高くて、光源氏が露を分けてお入りになったとかいう蓬も得意顔で生い茂っている中を分け入りながら、中門より歩み入って（中を）見ると、正面の庭がたいそう広くて、呉竹を一面に植え、卯の花垣根など、ほんとうに（古歌にあるように）ほととぎすが蔭に隠れてしまいそうで、山里めいて見える。庭の植え込みはあちらこちらにかたまってたいそう多く見えるが、まだ咲かない夏草の茂みが、たいそうむさくるしい感じの中に、撫子や長春花ばかりが、たいそう気持ちよさそうに、今が盛りと見える。軒に近い若木の桜なども、花盛りの頃が自然と想像される木立が、すばらしい。

南面の中央二間ばかりは、持仏堂などだろうかと見えて、紙障子が一面白々と立ててある。絶えずたいている香の煙が、けむたいくらい立ち上り充満して、（仏に捧げる）すぐれた香なども香り高い。何よりも、仏様がいらっしゃると思うのもたいそううれしくて、花籠を肘に掛け、檜笠を首につりさげたまま、縁の端に歩み寄ったところ、寝殿の南、東と、（それぞれの）すみ二間ばかり上がった御簾の内に、箏の琴の音がほのかに聞こえる。たいそう奥ゆかしく、（中の様子を）見たいと思っていると、若やかな女の声で、「たいそうかわいそうな様子だこと。それほどのお年で、どれほどの信心でほんとうに見るのもつらいことをなさっているのですか。小野小町が肘に掛けたとかいう花籠よりは立派です」などと言う人がいる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔**重要単語**〕　※「敬語」の「重要単語」は文法講座で既出のため、省いています（第二講以降も同様）。

○そのかみ【其の上】…①**その当時**。②過去。昔。
○おもて【面】…①**顔**。②**面目**。③仮面。
○いとど…①**ますます**。②そのうえさらに。
○つつまし【慎まし】…①**遠慮される**。②恥ずかしい。
○しるべ【導・知る辺】…①導き。**案内すること**。また、その人。②知り合い。
○むつかしげなり【難しげなり】…**不快である**。気味が悪い。むさくるしい。
○こころにくし【心憎し】…①**奥ゆかしい**。②恐るべきだ。③不審だ。
○ゆかし【床し】…①**見たい**。**聞きたい**。**知りたい**。②なんとなく**慕わしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔解説〕

① 月の異名。「長月」は九月。よって、正解はニ。二〇一二、二〇一三年と連続で、月の異名や季節が出題されていた。古文常識もきちんと押さえておくこと。

② 重要単語も頻出。取りこぼさないように、確実に得点しよう。「あてなり」・「あてはかなり」は「上品だ・高貴だ」の意味。漢字「貴なり」で覚えておくとよい。よって、正解はホ。

③ もう一題、重要単語の問題。形容動詞「らうたげなり」は、形容詞「らうたし」の派生語。「らうたし」の語源は、「労」＋「甚(いた)し」。「労」は「いたわる」、「甚し」は「程度がはなはだしい」の意味。世話をして、いたわってやりたい様子＝「かわいい、いとおしい」。よって、正解はロ。

④ 文学史。「先師」とは「すでに亡くなった先生・師匠」のこと。向井去来は松尾芭蕉の弟子である。よって、正解はロ。ちなみに本設問は、本来は選択肢ではなく「人名を漢字で答えよ」という問題であった。同じ年度の他学部でも「松尾芭蕉」を漢字で答えさせる問題が出題されていた。俳諧の基本的な知識は押さえておくべきであろう。選択肢のイ、ハ、ニはすべて松尾芭蕉の弟子である。

⑤ 空欄補充の問題。設問文や選択肢からも、係助詞や、呼応の副詞などの文法問題ではないことがわかるが、解くためのヒントが空欄の前後にあるのは同じ。二つの和歌の共通の言葉「煙」に気付くと、正解はすぐに導けるであろう。最初の和歌の「ほのほ」＝「炎」もヒントになる。どちらも「火」に関わるので、正解はニ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥

問1　和歌の空欄問題。和歌の場合は、字数をある程度のヒントにできる（和歌には「字余り」などもあるため、絶対とは言い切れないが、ただ、空欄補充の問題になっている解答箇所が「字余り」や「字足らず」になっているものを今まで一度も見たことがないので、ヒントの一つとしては使えるであろう）。設問文の能因法師の和歌は有名なので、知っている人にとってはすぐに答えを選べる問題であろうが、もし知らなかったとしても、「字数と空欄の前後に手がかりを探す」という、いつもの方法できちんと解ける。まず、字数は上や下から区切っていくと三文字になることがわかる（イ、ハ、ホに絞る）。下の句で、白河の関では秋だということがわかる。三句目「たちしかど」の最後が逆接の接続助詞「ど」であることから、都を出発したのは秋ではないこともわかる。では秋以外のいつの季節に「何」と一緒に旅立ったのか。空欄の前後に手がかりを探すと、三句目の「たち」が、「都を旅立つ」の「たち」と、「春霞が立つ」の「たち」の掛詞に気付けたかがポイント。空欄補充に、和歌の修辞技法も絡ませた問題である。よって、正解はホ。

問2　こちらも知っていれば、すぐに解ける知識問題でもあるが、知らない場合もきちんと解ける。問1を踏まえているので、同じく逆接を使う。「都を夜に出発したのだ**けれど**」ということは、もう夜ではない。では、いつなのか。そのまま、傍線部の後ろに手がかりを探すと、僧が女に「明けはなれなば（＝もし夜がすっかり明けたならば）（「なば」の「な」は「完了の助動詞の未然形」）」と言っているので、今はまだ夜はすっかり明けきってはいない。よって、前後をきちんと読むと、選択肢ニ「夜明け方」が最適とわかる。

〔解答〕

①　ニ

②　ホ

③　ロ

④　ロ

⑤　ニ

⑥　1　ホ　　2　ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。